# Inona ny vaovao?

イヌナ ニ バオバオ？
何か良いことあった ？

マダガスカル 青年海外協力隊 通信 第６号 （2018/4/19） 福長 輝倖

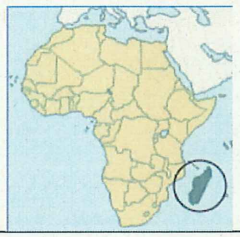
## 今回のテーマ：マダガスカルの旅行シリーズ ①ムルンダバ　マダガスカル来るならムルンダバへ行こう！

### 福長 輝倖（FUKUNAGA TERUYUKI）

隊次：2017 年度２次隊
活動国：マダガスカル
赴任地：アンズズルベ
（首都から約３時間）
職種　：コミュニティ開発
前職　：教師(非常勤/社会科)
出身　：岡山県･岡山市

### マダガスカルってどんなところ？

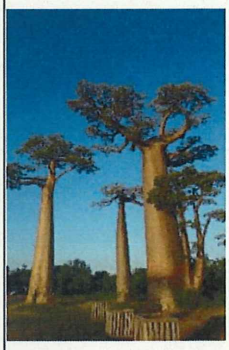
公用語：　マダガスカル語･フランス語
人口：　約 2500 万人（日本の６分の１ほど）
国土：　587，000 ㎢（日本より大きい！）
首都：　アンタナナリボ
宗教：　キリスト教及び伝統宗教、少数派イスラム教
民族：　約 18 部族



## ① 旅行スポット編 － バオバブ 時々 動物― －

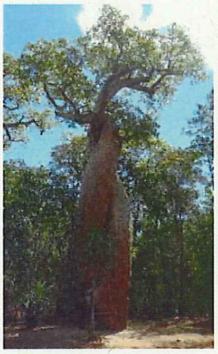
マダガスカルといえばバオバブの木。童話、星の王子様にも出てきます。そんなバオバブの木が見える場所こそ「ムルンダバ」！

### 朝のバオバブ：青い空とブサイクな悪魔の木



左の写真がバオバブの木。バオバブの木は、悪魔が大木を引っこ抜いて逆さに突き刺した、と言われる変な形をした木。ブサ可愛い形で、なぜかずっと見ていられる木です。

### 昼のバオバブ：愛が激しいバオバブ



「愛し合うバオバブ」と呼ばれている別種類のバオバブの木。確かに、激しく愛し合っている様子が伝わってきます。しかし、最後（上部分）は二つの幹は分かれていく。激しい愛は、結局最後はこのように。。。。。

### 夕方のバオバブ

**雲と楽しむバオバブ**

カメラマンの人が教えてくれました。「雲がある夕方の方が、時間の変化を楽しめるよ」確かに、毎秒毎秒ずっと綺麗でおススメ。

続いて、マダガスカルは自然保護をしている区域がたくさんあり、動植物をたくさんみることが出来ます

**横っ飛びのベローシファカ**

普段は木の上にいるベローシファカ。しかし、地面を移動するときは横っ飛び！「横っ飛び　ベローシファカ」でネットで検索。

**チャイロキツネザルと私**

チャイロキツネザルに関しては、何もわかりません。思い出は特になく、私と写真をとっただけ。皆さんは、何かいい思い出ができるといいですね。

**サルを食べるフサ**

このフサという動物、サルを食べる肉食です。今にもサルを食べそうな怖い顔。けど、実際は大あくびをしているだけ。

## ② ムルンダバの生活 － 民族の違いを楽しもう！-

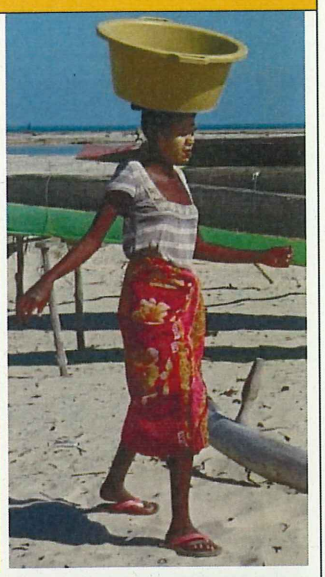
ムルンダバは海に面した町。民族が違うため、いろんな特徴があります！

### 特殊な髪型が流行

前回の特集でもお伝えしたように、女性は髪型に敏感。それは、ムルンダバの女性も同じ。右の女性の髪型は、サザエさんに近いです。しかし、中央部が足りません。世界にはいろんなオシャレがありそうです。

### 黄色く怖いお化粧

ベェズ族、彼らは漁を中心として毎日の生活が砂浜の上。日差しが強いため、写真のように女性は肌を守る黄色のマスクをする。しかし、とにかく見た目が怖い。綺麗になるために、怖い顔になる。綺麗になるのは難しい。



### 布を巻く少年

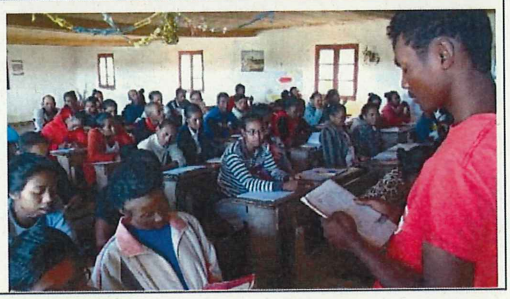
マダガスカルの朝は少し寒い。この少年のように、ムルンダバの人はよく布を巻いています。伝統的な布から新しいデザインのような布まで。ですが、中はちゃんと服を着ています。「伝統的な布じゃないんかい！服は着とんかい！」と思ってしまいましたが、それもこの土地の文化。

### お土産を作る少年たち

ムルンダバは観光客でにぎわう町。右の写真は、お土産で売られているバオバブの木。これらは、少年や大人がせっせと手作りをして作ったもの。マダガスカルの人は手先が本当に器用。マダガスカルに来た時には、お土産が良すぎて、必ず買いすぎます。でっかいバックで旅行に来ましょう。

## ③ 活動について － おとなが頑張ろう -

右の写真の赤い服を着た人が何かを読んでいます。他の人は、それを聞いています。これは、**地域住民が学校の補習授業を行うための研修の様子**です。私は、その運営のお手伝い。ほとんどの人は、普段は農家で朝から米を作っています。この会議に来ても、お金はでません。けれど、彼らは参加します。「忙しい」「難しい」と言いながら、彼らは朝 8 時から、夕方 4 時まで研修を受けました。どんな形であれ、おとなが子供のために頑張っているカッコいいと思います。



## ④ 活動について － 子どもも頑張る -

### 学校でかまどを作りました

先日、学校の校長にかまどをつくるための材料を頼んでいました。けれど、校長先生は何も覚えていませんでした。かまどをつくる当日、材料がないことに悩んでいると、「材料は何？」と子供が聞いてきました。材料を教えると子供が畑に走っていきました。必要な量を伝え忘れたため、大量に稲刈り後の「わら」を持ってきてくれました。おかげで、かまどを作ることが出来ました。けれど、子どもたちが前が見えないくらいたくさんの「わら」を持ってきてくれたことが一番うれしかったです。